



2022/3期3Q決算

海外需要を追い風に過去最高益を大幅に更新
通期会社予想も上振れ余地を残す

業績動向

第3四半期決算は売上高が129億円へ前年比 24% (25億円) 増加し、利益段階では営業利益、経常利益、当期利益がすべて前年同期の倍以上となり、第3四半期としてはいずれも過去最高益となった。主力の前臨床事業でコロナ禍による医薬品開発の外部委託化トレンドが加速し、さらに大型実験動物を必要とする抗体医薬や核酸医薬などバイオ医薬品の開発競争が世界的に活発化している。このような状況から、中間決算時に上方修正して通期売上高を 174億円へ前年比 15% (23億円) の増加としていた会社予想は、18% (28億円) 増の 179億円へと再度上方修正された。利益段階では営業利益が 41億円へ 8% (3億円)、経常利益は持分法適用の臨床試験受託子会社 (新日本科学PPD) の好調も反映して 56億円へと 22% (10億円)、当期利益は 58億円へ 18% (9億円) の上方修正となった。業績好調のため、当期の一株当たり期末配当予想についても従来の 20円から 40円に上方修正された。

しかし、第4四半期には国内子会社 (SNLD社) における臨床第 1相試験の開始など投資的な経費を拡大する計画から利益段階の上方修正幅は抑制されている。上方修正された通期予想と第 3四半期実績との差額を見ると、第 4四半期の当期純利益は前年同期比 75% (16億円) の減少を想定していることになる。売上高においても示唆される前年比 6% (3億円) 増収の想定は非常に保守的であり、最終的な通期業績は会社予想を上回る可能性があると考えられる。

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	当期利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)
2022/3会予(2/2)	17,900	18.5	4,100	62.1	5,630	54.4	5,800	58.4	139.31
2022/3会予(中間)	17,400	15.2	3,800	50.2	4,600	26.2	4,900	33.8	117.69
2022/3会予(期初)	15,982	5.8	2,550	0.8	3,200	-12.2	3,900	6.5	93.67
2021/3 実績	15,110	3.8	2,529	13.5	3,645	16.8	3,661	43.6	87.95
3Q(4-12月)									
2022/3 実績	12,946	24.2	3,300	103.0	4,684	184.5	5,247	255.4	126.05
2021/3 実績	10,420	3.5	1,626	3.1	1,646	-23.1	1,476	-8.0	35.47
4Q(1-3月)									
2022/3 想定	4,954	5.6	800	-11.4	946	-52.7	553	-74.7	13.30
2021/3 実績	4,690	4.5	903	38.7	1,999	104.2	2,185	131.2	52.50

出所：会社資料よりSESSAパートナーズ作成

決算概要 2022年3月期3Q (累計)

2021年度第3四半期 (4-12月) の売上高は前年比24.2%増加した。前臨床事業の好調な受注と豊富な受注残高を背景に施設稼働率が高まり、売上原価率は前年同期 (51.8%) から 6ポイント低下して 45.8%となった。

Q3 FOLLOW-UP



Focus Points:

世界的に拡大する創薬ビジネスの恩恵を受ける日本トップのCRO企業。試験対象動物の独自サプライチェーンを構築し、高い参入障壁を持つ。

主要指標

株価 (2/9)	1,620
年初来高値 (11/22)	1,870
年初来安値 (3/4)	606
10年間高値 (13/4/25)	2,540
10年間安値 (16/2/12)	300
発行済株式数(百万株)	41.632
時価総額 (十億円)	66.112
EV (十億円)	71.793
株主資本比率(3/31)	42.56%
22/3 PER (会予)	11.63
21/3 PBR (実績)	4.20x
21/3 ROE (実績)	22.9%
22/3 DY (会予)	2.47%

株価チャート

52 weeks

Trading View



アナリスト **三島 茂**

research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレームーをご覧ください。

さらに、内部業務プロセスのイノベーション（作業工程におけるロボット化や自動化の推進）などの経費節減により、販管費は9.4%の増加にとどまり、営業利益率は10ポイント拡大して25.5%となった。以上から営業利益は17億円（前年比103%）増加して33億円となった。

経常利益は30億円（前年比185%）増加して47億円となった。営業外収支の拡大（14億円）は前年の為替差損（5億円）が当期は差益（5億円）に転じたことが主因であったが、さらに臨床事業においてグローバル治験の国内実施を主力事業とする合弁子会社（新日本科学PPD）の持ち分法による投資利益が8億円を超えたことによる3億円の増加が貢献した。

当期純利益は経常利益の増加（30億円）に子会社株式の売却による特別利益（11億円）などが加わり、前年比3.5倍の52億円となった。

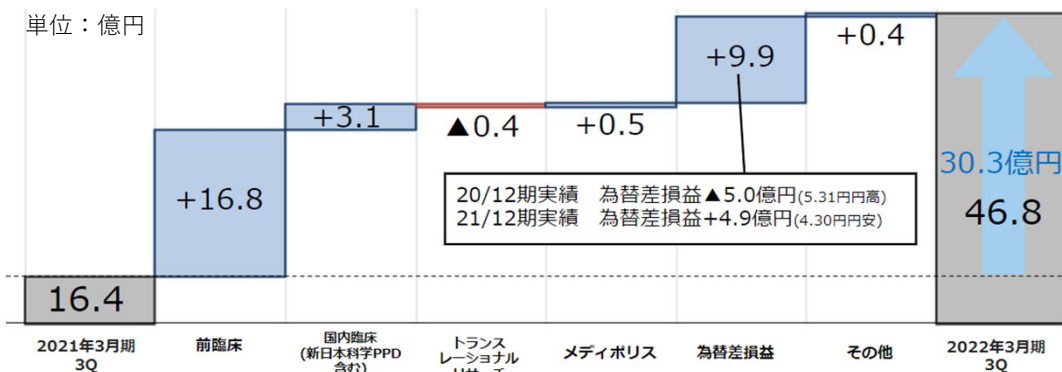
(百万円)	21/3期 3Q累計	22/3期 3Q累計	増減額	YoY (%)	対売上高比	
					21/3, 3Q	22/3, 3Q
売上高	10,420	12,946	2,526	24.2	100%	100%
売上原価	5,394	5,924	530	9.8	51.8%	45.8%
販管費合計	3,399	3,724	321	9.4	32.6%	28.7%
営業利益	1,626	3,300	1,674	103.0	15.6%	25.5%
経常利益	1,646	4,684	3,038	184.5	15.8%	36.2%
特別利益	50	1,419				
特別損失	10	59				
法人税等合計	199	789				
当期利益	1,476	5,247	3,771	255.4	14.2%	40.5%

出所：同社決算短信よりSESSAパートナーズ作成

セグメント別連結経常利益 -前年同期比較-

	CRO事業		トランス レーショナル リサーチ事業	メディボリス 事業	為替差損益	その他	経常利益 合計
	前臨床事業	国内臨床事業 (新日本科学PPD含む)					
2022年3月期3Q	39.2	9.3	-4.9	0.1	4.9	-1.8	46.8
2021年3月期3Q	22.4	6.2	-4.5	-0.4	-5.0	-2.3	16.4
前年同期比増減額	+16.8	+3.1	-0.4	+0.5	+9.9	+0.4	+30.3

経常利益の増加額（30億円）は前臨床事業（17億円増加）と新日本科学PPD（3億円増加）、および為替差損益（10億円）でほぼすべて説明される。



出所：同社決算説明会資料

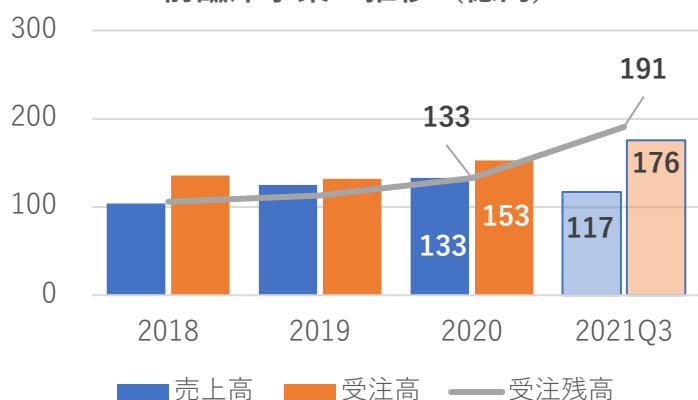
前臨床事業

・受注残高の増加が加速

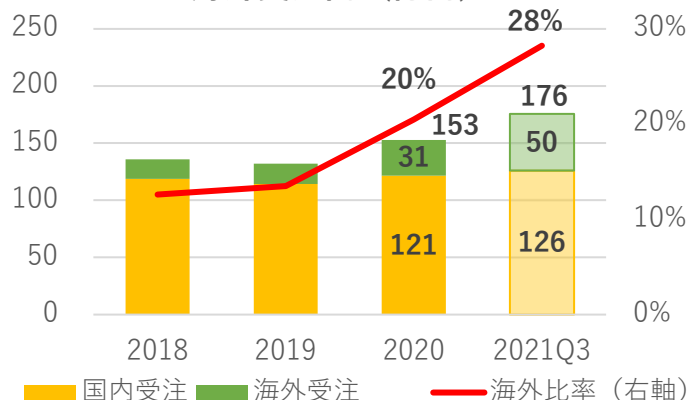
当社の強みである霊長類（サル）試験の需要は国内外で顕著に拡大している。背景には抗体医薬や核酸医薬、さらに遺伝子治療薬といった霊長類試験が必要となるバイオ医薬品の開発競争がある。開発企業はスピードアップと効率化を目指してCROへのアウトソーシングを引き続き拡大している。前臨床試験のリードタイム（受注から売上計上までの期間）は米国では一般的に1年以上とされるが新日本科学ではおよそ半年となっている。新日本科学はリードタイムを短縮して顧客が求めるスケジュールに合わせた試験を実施し、高水準の報告書を迅速に完成できる体制を構築して顧客に対して多大な時間的価値を提供しており、とくに緊急を要するCOVID-19関連のワクチンや治療薬の開発においては10件程度の前臨床試験を受託している。

第3四半期累計の受注高は前年度の受注高をすでに23億円上回っている。その内訳をみると海外受注高が前年同期比2.2倍増の50億円と伸びが顕著である。受注高に占める海外比率は前年度（2020年度）に7ポイント拡大して20%に達していたが、さらに28%へと8ポイント拡大した。受注残高は191億円となり前年度末からは44%もの増加となっている。グローバル競争力が売り上げ増加を加速している様子が窺われる。

前臨床事業の推移（億円）

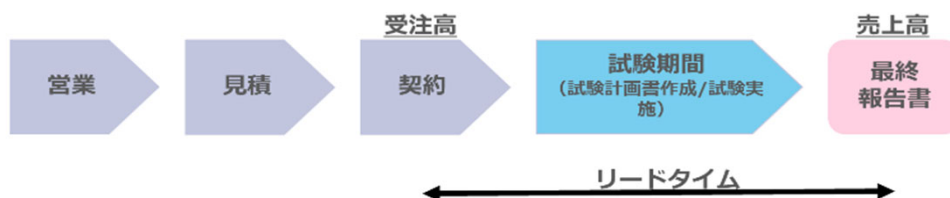


海外受注高（億円）



出所：同社決算説明会資料よりSESSAパートナーズ作成

前臨床事業のイメージ図



(百万円)	2020/3期 3Q 実績	2020/3期 通期実績	2021/3期 3Q 実績	2021/3期 通期実績	2022/3期 3Q 実績
受注高	9,516	13,194	11,673	15,271	17,569
受注残高	11,656	11,299	13,686	13,275	19,070

出所：同社決算短信よりSESSAパートナーズ作成

トランスレーショナル リサーチ事業 (TR事業)

トランスレーショナル リサーチ事業 (TR事業) 国内外の大学、バイオベンチャー、研究機関などにおける基礎研究から生まれる有望なシーズや新技術を発掘し、前臨床試験や臨床試験を行うことで付加価値を高めて事業化へつなげる研究開発を行っている。第3四半期累計の売上高 0.1億円はわずかであるが、前年比では大幅に増加した。一方で営業損失 0.5億円はほぼ同水準で推移している。経鼻神経変性疾患レスキュー薬の臨床開発を目的として前年 (2020年) 10月に設立した100%子会社SNLD社が 2021年度中に第1相臨床試験を開始する準備が進んでいる。さらに経鼻ワクチンを含む新規経鼻ポートフォリオの創生を目指している。

メディポリス事業

メディポリス事業は新型コロナウイルス感染拡大でホテル宿泊施設において低水準な稼働率が続いていることから、第3四半期 (累計) 売上高は4.1億円へ前年同期比 2%減少した。一方、営業利益は0.1億円へと前年同期の営業損失0.4億円から黒字に転換した。地熱発電事業において 1,500kW級のバイナリー型地熱発電所が高稼働で推移して収益に貢献したことが主因である。

ディスクレイマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や情報は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都渋谷区広尾5-3-18

info@sessapartners.co.jp